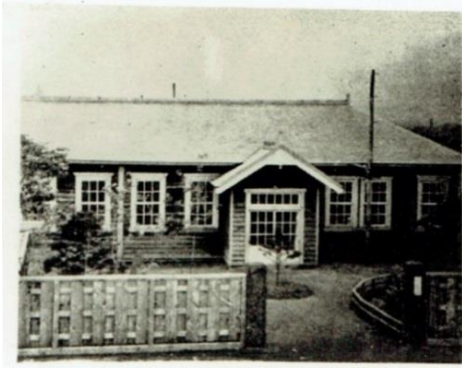


登別市史編さんだより

写真で見る役場・役所の移り変わり



明治40年頃から昭和20年11月まで

駅から一番近い役場

江戸時代には、ホロボツ会所（行政機能のほか宿泊所機能などもある建物）が幌別町1丁目付近（現在のときめき橋下のあたり）にありました。

その後、役場は何度か移転し、明治40（1907）年頃には幌別町3丁目3番地に置かれます。

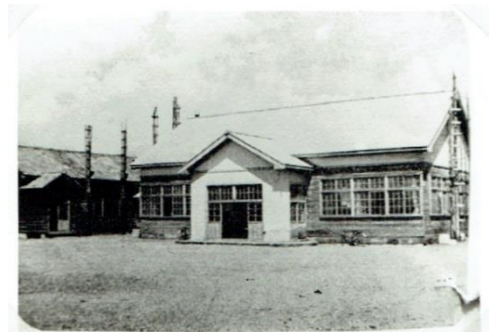
この庁舎は、幌別駅まで約50mと近かったため、“駅から一番近い役場”と言われました。また、大正8（1919）年には幌別村・登別村・鷺別村の三か村を合わせて発足した新しい幌別村の役場となります。

胆振管内一のオンボロ役場

昭和20（1945）年、庁舎の老朽化と職員数の増加のため村役場を幌別町3丁目17番地（現・鉄南ふれあいセンターの場所）に新築移転することになります。

この庁舎は、市内の劇場を解体し、その材料を使って建設したため、当時の新聞紙上では“胆振管内一のオンボロ役場”と書かれることになります。

この庁舎では、昭和26（1951）年に“幌別町”として町制を施行し、昭和36（1961）年4月に“登別町”と改称します。



昭和20年11月から36年8月まで



昭和36年9月から現在（写真は建築当初）

町役場から市役所へ

昭和34（1959）年頃には、雨漏りが多くなるとともに職員数が更に増加したため、庁舎の増改築が検討されます。

検討する中で、今後の事務量の増加と、それによる職員数の増加を見込んで新庁舎を建設することとなり、昭和36年9月に現在地に新築移転します。

登別市は、この庁舎で昭和45（1970）年8月の市制施行を迎えます。

市役所庁舎の増改築

昭和49（1974）年9月には人口が5万人を突破した登別市。

庁舎の新築当初は約200人だった職員数も400人を超え、手狭になってきたことから昭和49年に本庁舎の増改築をします。

写真は増改築前の本庁舎裏側。今も様子をとどめる部分と、まったく変わってしまった部分があります。



増改築前の庁舎裏側（第二庁舎から本庁舎に向けて）

資料の紹介～登別温泉の観光パンフレット、絵はがき～

これまでも多くの方から提供いただいていた資料。

今回ご紹介するのは、海を越え青森県青森市在住の方から寄贈していただいた資料です。

●観光パンフレット



左：幌別町時代、右：登別町時代に発行（市所蔵）

写真は、両方とも町が登別温泉観光協会（現・一般社団法人登別国際観光コンベンション協会）と共同で発行した観光パンフレットです。

一見するとそっくりですが、よく見るとちょっとした違いが・・・。

左は、支笏洞爺国立公園指定十周年を迎えた昭和34年に“幌別”町が発行した観光パンフレット、右は、昭和36年に“登別”町に改称してから発行したものです。

中を見ると、掲載されている旅館名や観光スポットの写真などから、温泉街の移り変わりが見えてきます。

●登別温泉のホテルや商店が製作した絵はがき

明治33（1900）年に私製絵はがきが認められて以降、日本国内では多くの絵はがきが販売され、登別温泉でもホテルや商店が何種類も販売してきました。

絵はがきの裏面には、温泉街の街並み、地獄谷、大湯沼などの写真が使われており、販売当時の登別温泉の様子をしのぶには格好の材料になります。



絵はがきの裏面（市所蔵）



昭和20年代に製作・販売の絵はがき（市所蔵）

左の写真は、現在の平塚商店前から第一本館の方向を望んだ昭和20年代の登別温泉の様子絵はがきです。

この登別市史編さんだよりを手に、当時と現在を見比べてみてはいかがでしょうか。

◎資料に関する情報提供のお願い

市史編さんグループでは、昔の登別を知る手掛かりとなる資料についての情報を集めています。

お祭りやまちの様子を写した写真や映像、当時の日記など、お心あたりの方はご連絡ください。

（連絡先）登別市総務部市史編さんグループ 千葉・更科・玉田・小坂

電話：0143-50-6039 FAX：0143-85-1108